

評価分科会総合評価

研究課題名：C2 季節予報の高度化と異常気象の要因解明に関する研究

評価委員

委員長：木村富士男

委員：蒲生俊敬、田中佐、田中博、中島映至、渡邊朝生

記入年月日：平成 28 年 11 月 29 日

1. 委員評価

- (1) 継続の可否 継続 新規課題に移行 中止
(2) 修正の必要の有無 修正の必要あり 修正の必要なし

2. 総合所見

4次元変分法全球海洋データ同化システムの開発など、季節予報の高度化に真正面から取り組んだ研究であり、気象情報のユーザの希望に適った成果が得られつつある。

本庁との連携に一層留意するとともに、計画の若干の遅れ（高分解能大気モデルの改良など）を取り戻し、すべての目標を期限内に達成することを期待する。

次期現業季節予報システム開発については、モデルの高解像度化及び海洋 4 次元同化技術の導入により予測精度の向上が期待される成果が得られている。

エルニーニョ現象の予測についての詳細な検討（予測が外れた原因の詳細究明）は今後の予測精度向上に向け学術的に高く評価される。

海洋同化の改良に注力するという戦略は適切であり、その成果が出ている。全球 - 熱帯ネスト海洋モデルは重要なので是非成功させて欲しい。

次期季節予報モデル (TL319L100, 0.25x0.25deg)の開発と JRA-55 同化システムを用いた再解析の感度実験という今後の目標設定も適切である。

論文公表、学会講演など、成果報告は十分なされていると判断できる。

今後、気象庁気候情報課との連携により研究開発を確実に進展させ、社会の要請に応えることを期待する。今後以下のことに留意しつつ、引き続き研究計画に沿って研究開発を進めていただきたい。

- ・JRA-55 再解析データの性能評価を行っているが、全球または北半球平均プラネタリーアルベドの長周期変動についても解析したら良いのではないか。
- ・2015 年から 2016 年にかけてのエル・ニーニョ未発達について新しい知見も紹介されていたが、今後モデルによる予測向上にまでつながるモデルの改良を期待する。
- ・現業季節予報システムの改良を本庁と一緒にやっている点も評価できるが、気象研究所における他の研究課題の海洋同化及び高解像度化の研究とより深く連携できたら

よいのではないか。